

特集

平成18年7月豪雨災害から10年

災害に強いまちをめざして…

平成18年7月、活発化した梅雨前線の停滞により、すさまじい雨が降り続けました。そして19日、市内各所で土砂災害が発生。湊と川岸では、大規模な土石流が起き、人命も失われました。家屋の損壊、田畑や道路の埋没も激しく、膨大な土砂の撤去に始まった真夏の復旧作業は、たいへんな試練でした。しかし、助け合いから深まった地域の絆、被災の経験から得た教訓や知識は、災害に強いまちづくりへの糧ともなりました。

豪雨、台風、地震…大災害は、全国各地で毎年のように発生しています。自然の猛威をはねのけることはむずかしいとしても、当時の記憶を心に留め置き、備えることで、被害を最小限に食い止めることはできると思います。あの災害を乗り越えたわたしたちなのですから…。

平成18年7月 豪雨災害の概要

●7月15日(土)

梅雨前線が、中国、北陸、中部地方に停滞。断続的な豪雨をもたらす。

●7月17日(月)～19日(水)

さらに大雨が降り続き、観測史上最大値の総雨量400ミリを記録。

●7月19日(水)

未明からすさまじい雨。市内各所で土砂崩落や河川溢水が発生。湊の「小田井沢川」と橋原の「志平川」で、死者8名。市民の生命、財産に甚大な被害が及ぶ。

避難勧告を9区に、避難指示を2区に発令。避難所は、小・中学校、公民館など13か所に開設。



平成18年7月豪雨災害記録誌
「忘れまじ豪雨災害」

災害をふり返って

赴任中だった上の原小が…

山崎 芳美先生



「校舎に土砂が…」早朝、学校からの連絡網で、被災を知りました。市役所に集会后、学校の様子を見に行く、途中、マンホールの

の重いふたが、ガバツゴボツと持ち上がるように圧倒されました。学校にたどり着けたのは、校舎が楯となり、土砂を食い止めてくれていたからで、土砂や木々が大量に押し寄せた体育館も、ガラス窓やドアが堅牢だったので、近隣の住宅に被害が広がることなく、これぞ不幸中の幸いといった状況でした。周辺に、一時的に発動されていた避難勧告も解除となり、子どもたち全員が無事が確認できて、ほっとしました。

予定より1週間早く夏休みに入るという措置により、授業に影響がなかったのが、ありがたかったです。PTA、学校関係者の応援や、ボランティアのみなさんのおかげで、土砂は、休みの間にすっきり取り除かれました。泥水すくいやバケツリレー、机の移動などは、やっているうちに要領がよくなり、後半の手早さといつたらなかったです。また、職員室の退避や図書室の除湿、壊れた石油タンクから



上の原小裏の土砂崩落

漏れたオイルの処理などでは、迅速な市の対応に助けられました。

休み明けに登校してきた子どもたちは、木の床の傷みや水位の跡が残る壁、土砂に埋まったままのプール、校庭に山積みされた土砂を見て、災害の



体育館の泥の撤去作業

大きさを実感したようでした。校庭が使用できない状態であったので、児童も職員も、運動会はできないだろうとあきらめていたのですが、見る見るうちにきれいに片付けていただき、予定通り運動会を行うことができました。それには、子どもたちも大喜びで「自分たちのために、みんながやってくれた。だから、お返しをしたい」といい、児童会では、毎年7月19日に学校集会を開き、災害をふり返る機会としたほか、被災地に募金を送る活動なども自発的に始めていました。感謝の気持ちを抱き、成長した子どもたちが、そのことを忘れないようにと行動する、すばらしいと思いました。

25歳の時に湊の自警で…

瀧澤 佑記さん

「車を安全な場所へ移動させてきた方がいい」と親に起こされて外に出ると、10数センチの水がついていました。何とか車を駐め直し家に戻ると、水位は1メートル近くに増えていて、これはえらいことになったと思いました。家財道具を1階から2階に運び上げる以外、なす術もなく、自分の家のこの辺りの洪水が、一番ひどいではなからうかと思っていました。しかし、テレビをつけると、300メー



当時の被害状況(南部中付近)

トルくらい先の小田井で、あの土石流が発生していました。

南中に避難する用意をしていると、南中は危険、田中(現岡谷田中)小に行くようにと指示され、どうなっ

うのだろうと、とても不安でした。避難所では、配給の食事が3種類から選べたり、毛布などもすぐ届いて、わりと至れり尽くせりな印象でした。被害が限定的で、物資の滞りがなかったのが、よかったのでしようが、不安を抱え、体育館で長く過ごすのは、精神的にも肉体的にもつらいことです。わが家は、長地の親せきに泊めてもらうことになったので、避難所に長くどまることはありませんでしたが、たとえば、いま、小さな子どもが2人いるこの状態で、避難所生活をしなくてはならないと想像すると、どんなに困難だろうと思います。

家の周囲の水は、2日ほどで引け、3日目くらいから、泥の撤去を始めました。雪かきが思いのほか役立ちました。家が片付いてから、小田井へ応援に行きました。夏場だったので、魚の腐った匂いやらがきつかったのを思い出します。

災害の後、一度は用意した非常持ち出しのセットも、食品は消費期限が来るし、そのうちしまい込んでしまっていました。喉元過ぎれば…では、いけないと思いつつも、そのまま過ぎてきてしまい…反省ですね。これを機会に、あらためて準備したいと思えます。



ボランティアによる片付け

災害への備え、10年目を迎えて

被害を検証し、市の防災体制を整備

土石流などの発生時、現場(区)の状況を、対策本部(市)で十分に把握できていなかったことが課題としてあげられました。正確な情報をより多くより早く共有するしくみがなかったのです。

そこです。市は、情報収集や情報伝達方法の改善に取り組み、安全で安心な生活を送れるように、またいつ起こるかもしれない災害にも備えて、多くのしくみづくりを進めてきました。また、被災したみなさんへの支援態勢強化を図りながら、被害拡大防止のための事業も推進しました。

①職員体制の強化

危機管理室の職員を2名増員し、体制を強化。

②活動体制の強化

市内の状況を十分に把握するため、庁内の職員体制を見直し、現場対応している部署と、速やかな情報交換ができるシステムを確立。また、避難準備・勧告における雨量基準を設定し、避難体制も強化。

③地域との連絡体制の強化

災害発生時に、災害対策本部と各区との情報の共有をよりスムーズに行う必要性から、各区に同区の近くに居住の市職員を派遣する「地域連絡員」の出動態勢を整備。

④自主防災組織連絡協議会の立ち上げ

21区の自主防災組織のつながりを強化するため、連絡協議会を組織。

⑤情報伝達手段の拡充

「岡谷市移動系防災行政無線」を増設配備。さらに市民向けに「岡谷市防災ラジオ」の販売と、「メール配信@おかや」の配信をはじめ、市からの情報伝達を、より確実に。
(詳細は6ページに)

⑥「岡谷市防災の日」制定

災害から5年目を迎えた平成23年に、災害が起きた7月19日を「岡谷市防災の日」として制定。

⑦岡谷市防災・減災基本条例制定

災害から10年目を節目として、今年度から新たに「岡谷市防災・減災基本条例」を制定。

⑧雨量計の設置

豪雨災害時には、市内のほぼ全域が豪雨に見舞われた。市内11か所に雨量計を設置し、各地域に対する迅速な判断や対応を可能に。



⑨豪雨災害関連の砂防えん堤の完成

実際に被害が発生した地域を中心に砂防えん堤を整備。(36か所整備)



横河川左支川



小田井沢川



志平川



ヒライシ沢

⑩大川・塚間川調節池と市内河川の拡幅整備・監視

監視カメラを設置。現状を即時把握。



⑪避難施設の整備

災害発生時に避難施設となる公共施設では、安全性(耐震化)の向上と、バリアフリー(段差の解消、スロープや多目的トイレの設置)推進。



避難所表示看板

わかりやすい避難所表示看板と避難所案内図の設置、小・中学校へのマンホールトイレの整備も推進。

平成18年7月豪雨災害

10年伝承事業

防災・減災啓発 今年度実施の取り組み

〔4月〕

岡谷市防災・減災基本条例施行
防災・減災対策の啓発開始

〔5月23日〕

市内11小・中学校で
災害パネル巡回展・出前講座

〔7月〕

イルプラザにてパネル展(約1週間)

岡谷図書館に防災関連図書コーナー開設

〔7月9日(土)〕

平成18年7月豪雨災害10年伝承事業

忘れまじ豪雨災害

～安全・安心なまちをめざして～

＜カノラホール大ホールにて＞午後1時30分～4時30分
平成18年7月豪雨災害シンポジウム

～忘れまじ豪雨災害

安全・安心なまちをめざして～

＜カノラホール小ホールにて＞午前10時～午後3時
防災用品展示・災害パネル展

＜カノラホール駐車場にて＞午前10時～午後3時
災害関連車両体験・災害対応車両展示

〔7月16日(土)〕

危険渓流市民見学会 実施

(小田井沢川ほか)

〔7月19日(火)〕

「岡谷市防災の日」

防災行政無線放送による市長呼びかけ

災害パネル展



出前講座

自然災害の恐ろしさは、経験した人にし
かわかりません。想定外の状況や急激な変
化のなかでは、焦りや戸惑いから、頭でわかっ
ていることや訓練でできたこともできなくな
ります。だからこそ、物質的な備えよりも「心
の備え」がだいじなのです。「きつと、だいじよ
うぶ」や「なんとかなる」ではなく「災害は必
ずやってくる」という心構えで、現実と向き
合わなければ、大きな脅威に立ち向かうこ
とはできません。一人ひとりが防災意識を持
ち、みんなで災害に備えることで、わたした

ちの安全安心が守られます。

まずは、自分の命は自分で守る「自助」、
食料の備蓄や防災グッズの準備、迅速な避
難などを行います。そして、隣同士や近所
に声をかけて助け合う「互助」、さらには、
地域みんなで支え合い、行動する「共助」。
こうした心の備えが、被害を減らすチカラ
となります。

地域の人々とのつながりを大切に、力を
合わせていくことの意味を、災害を知らない
世代の人たちに、ぜひ伝えていきましょう。

今すぐできる防災対策

「防災ガイド」を活用しましょう！

◇家族で備える

◎避難施設・避難場

所の確認

洪水・土砂災害・

地震が発生した場

合に備え、日頃か

らそれぞれの避難場所や避難経路・連絡方

法などを家族と話し合い、確認しておきま

しょう。

◎わが家の安全対策

定期的に、家の内外の危険箇所をチェック

しましょう。また、住宅の耐震化を行い、

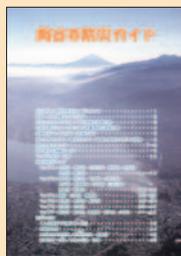
家の中では「落下・転倒防止対策」「火災

防止対策」「身の安全対策」を行うておきま

しょう。

◎非常持出品・備蓄品の準備

非常時に備えて、持ち出し袋を用意してお



◇地域で備える

◎自主防災組織の充実

自主防災組織を充実させ、自分たちの地域

は自分たちでしっかり守っていきましょう。

◎定期的に点検

地域の危険箇所や防災倉庫は、定期的に

点検を行いましょう。

◎防災訓練の実施

地域で定期的に防災訓練を行い、災害に強

いまちにしまししょう。

〔市が発令する避難関係情報〕

避難準備情報…人的被害の発生する可能性

が高い。↓避難の準備を！

避難勧告…人的被害の発生する可能性が明

らかに高い。↓状況を見極めて避難！

避難指示…人的被害の発生する危険性が非
常に高い。↓すぐに避難！

